

# 大手企業への派遣で専門知識を習得、 人材育成で新たな事業展開へ。

## ヤスハラケミカル株式会社

### 会社概要

松やオレンジから採れる天然由来の精油「テルペン」を主原料に様々な工業原料を開発・製造。粘着・接着、香料、自動車関連部材、電子材料などの幅広い分野で利用されており、研究所ではテルペン化学の応用技術について更なる研究を進めている。



技術一部技術一課 副主任  
**内山 雄一朗** (37才)  
YUICHIRO UCHIYAMA

従業員数 / 246名  
勤続年数 / 11年目

- 2014～2015年 / 日揮株式会社プロセス部へ派遣
- 2016年 / 日揮と共同でプラント設備を建設
- 2018年 / 派遣で学んだ技術を活かし、自社設計でプラントを建設

## 業界大手のプラントメーカーへの社員派遣で、 社内に必要だった技術力を育成。

企業の未来を担う人材の育成を補助する「イノベーション人材等育成補助金」では、教育機関への派遣だけでなく企業への派遣も助成対象として認めている。この補助金を利用して、各種プラントのEPC事業を展開する業界大手企業・日揮株式会社に社員を派遣したのは、広島県府中市に本社を置くヤスハラケミカル株式会社。天然由来の「テルペン」を主原料に様々な工業原料を製造する同社がプラントの設備設計プロジェクトに着手した際、設計に関しての技術が社内では不十分だったことから、以前から交流のあった日揮株式会社に設計を相談。打ち合わせを重ねるうちに、社員派遣を受け入れる制度があった先方から提案を受けた。「プラントメーカーの膝下で設計を進めたほうが効率が良いというプロジェクト上の点でも、将来的にプラント設計分野を任せられる人



材を育成したいと考えていた当社の方針においても、専門企業の技術を直接勉強させていただけるというのは、ありがたい申し出でした」と技術一部技術一課下江康太課長は振り返る。さらに県から、企業派遣の場合でも給与保障などの補助金が利用できると案内されたこともあり、派遣の実施はすぐに決まったのだという。

## 見て触れて、プラント設計の 高度な専門知識を実地で習得。

派遣者として選ばれた内山雄一朗氏は、当時は30代に入ったばかりの若手社員。製造課でプラントの運転に携わった後、技術課へ転属し、このプロジェクトに加わっていた。「ある程度の規模のプラントを自社で設計・建設を行うことができれば、コスト削減の面でも会社にとっては大きなメリットとなります。内山君は製造の現場オペレーターの経験もあり装置にも詳しく、設備のことも知っている。さらに設計まで習得してもらえる最高の機会だと思いました」と会社の期待を一身に背負っての派遣だった。

プラントではテルペン油を化学反応させる工程や、成分を高純度化する精製工程などがある。精製の工程を正確に効率よく行うためには、単純に「設計」という言葉

では収まりきれない知識が必要となる。派遣された日揮プロセス部では、設計に関する資料を自由に閲覧できるだけでなく、気兼ねなく質問できる向学場に恵まれた。海外からの派遣者とも机を並べ、様々な部署を訪れては、実物を見て触れての実地指導を受けることもできた。

プラントにおける油や水の扱いに関しては、配管寸法、温度、圧力損失など様々な要素を考慮する必要がある。この基準となる専門知識が、派遣で得た一番の学びだったという。「若い人を育てようという気概がある部署で、一緒にプロセスを考えて、設計を行うことができました。新入社員になったような気持ちで、充実した日々でした」と内山氏は笑顔を見せる。

## 派遣で得た知識と技術力が、 自社設計でのプラント建設という新たな実績に。

内山氏を派遣して日揮プロセス部とともに行ったプラント設計と建設は順調に進み、一年間の派遣を終えた翌年、2016年にはプロジェクトを終了。さらに2018年には内山氏を中心に、派遣以前は独力では行うことができなかった自社設計によるプラントの建設プロジェクトにも着手した。機器の選定から計算、槽類やポンプの設置、本体の建設に至るまで自社で行ったこのプロジェクトを、品質、性能ともに満足の行く形で成功させたことは会社としての大きな自信となり、自社の設計技術向上をもたらした。

初の独自プラントプロジェクトについて「更地から設計して建てるまで任された内山君のプレッシャーは相当大きかったと思います」と気遣った下江課長だが「何かあったらすぐに日揮に相談していましたから」と内山氏。日揮との絆も強まった上に、今後は「作業者にとって、さらに安全性が高く負担が軽いプラントを設計したい」と意欲的だ。

## 企業派遣は人材育成の 最高のチャンス。

様々なプラントの運転や工程管理をジョブローテーションしながら担当させるなど、社内においても視野の広い社員の育成を行っているが、今後も機会があれば、若い世代から積極的に企業派遣や進学にチャレンジさせたいという。技術部門の若手には、専門企業の高度な知識や技術を身につけるために、今回のような企業派



下江 康太氏 内山 雄一朗氏

遣や大学との共同研究などを人材育成の最高のチャンスと考え、今後も継続していきたいという。

### イノベーション人材等育成事業補助金ご利用希望の方へ

専門知識のある企業に社員を派遣することは、自社では知り得ない高度な技術に触れる良い機会です。良い経験として本人の技術の向上や意欲につながるだけでなく、自社の事業展開にも結実する可能性もあります。弊社のように、人材育成や事業展開の一貫として、上手にこの補助制度を利用してもらいたいと思います。